

集會條例說明錄

九函	二十五架	一册	第十類
----	------	----	-----

国立公文書館

分類

2 A

掛架番号

33-9

1245

1.246

例言

一本書ハ集會條例ニ関スル各廳ノ質問ニ對シ説明セシモノヲ各其本條下ニ於テ編次ス

一本條例ニ関シ別ニ布告達ヲ以テ定メタル事件ハ本條例ノ末ニ附記シ其質問説明アレハ又之ヲ載ス

一本書ノ質問説明ハ本條例発行以來本年四月ニ至ルモノヲ舉ケ年月ヲ逐ヒ總テ之ヲ登録ス故ニ説明中偶甲乙ニ矛盾アルモノモ亦之ヲ省カス

一一文體ノ質問ニシテ其意義甲乙ニ涉ルモノハ其本意ノ最近ナル一方ニ編次

シ他ノ一方ハ（何々ヨリ質問アリ後何条参考）ト記シ参考ノ便ニ供ス

一各省ノ指揮ヲ受ケンカ為メ府縣ヨリ差出シタル伺書法律ノ説明ヲ為スニ止リ其省ノ指令ヲ要セサル事件ナルヲ以テ轉致セシモノハ質問ノ下（何省轉致）ト記載ス

一各省ノ指揮ヲ受ケンカ為メ府縣又ハ裁判所等ヨリ差出シタル伺書ニ付其省ニ於テ單ニ可否ノ意見ヲ附シテ質問セシモノハ其意見書ヲ記セス其府縣又ハ裁判所等ノ伺文ヲ記シテ質問ノ下（何々ヨリ何省へ伺文ヲ記シテ質問ノ下）ト記シ

其別ヲ為ス若シ其省ニ於テ詳細意見ヲ付シタルモノハ其意見ノ貫通スルト否トニ依リ其意見書ヲ單記シ或ハ府縣又ハ裁判所等ノ伺文ヲ駢記ス

一質問ノ意義本條例ノ全體ニ涉リ各條下ニ編次シ難キモノハ本書ノ末ニ附録ノ部ヲ設テ之ヲ編次ス

集會條例說明錄

第一條

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル爲メ
公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談
論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名
住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ
其會主又ハ會長幹事等ヨリ管
轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘ
シ

（静岡縣質問）十三年四月十日

第一條第二條ニ政治ニ関スル事項ト
有之ハ講談論議スル事項ノ趣意概略
ヲ記載為届出候儀ト相心得可然哉又

ハ阜ニ標題ノミヲ記載為致候義ニ候
成

説明 十三年四月十四日

第一條ニ於テ届出ツヘキ講談論議
ノ事項ハ其趣意概畧ヲ解シ得ルニ
止ル第二條ノ届出テニ於テ不分明ノ
事アレハ更ニ尋問スヘシ

富山縣質問 十三年四月十六日

第一條ニ行中講談論議ノ事項云々
ト有之右事項トハ如何ナル見解ヲ
下スヘキヤ或ハ之ヲ論議ノ大體普
通標題ノ如キ旨趣ト解スルカ又ハ
其論議全體全文ノ考按ト解シ可然哉

○十五年三月廿七号
布告ニ依リ不要資
問ニ属ス

但若シ本文事項ハ阜ニ其論議ノ大
體旨趣ト解スヘキトハ或ハ國ノ
安寧ヲ害スヘキヤ否ヤ等ヲ檢スル
ニ充分ナラサルモノハ其全文ヲ届
出テシムルヲ有之不苦哉

公然公衆ヲ集會セサルモ數十人又ハ
數百人相集會シ親睦會又ハ懇親會ト
唱ヘ其實議長幹事等ヲ撰定シ起立
法ヲ以テ政事ニ関スル事項ヲ論議ス
ルモノ有之ニ於テハ該條例ニ依リ處
分致シ可然哉

説明 十三年四月廿二日

第一條標題又ハ考按ニ拘ラズ其事項

ヲ解シ得ルニ止ル

第二條其見解ヲ以テ允当トス

石川縣質問 十三年四月十五日

第一條ノ場合ニ於テ會主又ハ會長等

ヨリ届出ル書面ニ講談論議ノ事項ト

アルハ題目ノミヲ云フ欲又ハ其趣意

ヲ詳記セシムル儀ナルヤ

此條例ニ政治ニ関スル事項トナルハ

日本帝國ノ政治上ニ止ラス況ク内外

ノ政治ニ関スル事項ヲモ講談論議ス

ルモノヲ云フ主義ナル哉

國事政體ヲ談論スルニアラスニテ專ラ

講學又ハ智識ヲ弘ル為メニ演説若

クハ論議スルモノハ此集會條例ニハ

関セサルモノト心得可然哉

説明 十三年四月廿八日

第一條 題目ト趣意書トニ拘ラス其
事項ヲ解シ得ルニ止ル

第二條 其見解ヲ以テ允当トス
但外國ノミニ関スル事項ハ此限ニ

非ス

第三條 其見解ヲ以テ允当トス

埼玉縣質問 十三年四月廿九日

第一條政治ニ関スル事項ヲ講談論議
スル云マトアリ然レハ農工藝等ノ如

キ其技術ヲ研究鍊磨スル目的ヲ以テ

公衆ヲ集ムルモハ固ヨリ其目的ヲ
異ニスルニ付談余例外ト見做スハヤ
モノリル哉

同条中講談論議ノ事項ヲ届ケ出認可
ヲ受クルトアリ其事項トハ論題ニ比
シキ項目ナルカ或ハ其演説ノ眼目夕
々趣意ヲ摘録スルカ或ハ其全説ヲ詳
悉記載スルモノナル哉

〔説明〕十三年五月七日

第一条 其見解ヲ以テ允当トス

第二条 題目摘録等ニ拘ハラズ其事
項ノ主旨ヲ解シ得ルニ止ル

〔愛知縣質問〕十三年四月廿日

會主ニシテ會長幹事等ヲ兼テ又ハ講

談論議スルノ人ト相成候儀ハ不苦候
歟

〔説明〕十三年五月十日

法ニ制限ナキヲ以テ不苦儀ト思考ス

〔岡山縣質問〕十三年四月三十日

親睦會又ハ懇親會ト唱ヘ數十人或ハ

數百人相集會シテ其實議長幹事等

ヲ撰定シ起立法ヲ以テ政治ニ関スル

事項ヲ論議スルモ有之ニ於テハ談

余例ニ依リ處分致シ可然乎云々相伺

候処其見解ヲ以テ允当トスト御指示

相成然ルニ議長幹事等ヲ撰定スルニ

○十五年三月廿七号
布告ニ依リ不苦ノ
質問ニ屬ス

非スモモ會議法ニ依ラスシテ其名義
ヲ親睦又ハ懇親會ト称シ實際ニ於テ
ハ政治ノ得失等ヲ論議スルモノ又ハ
論議決定ノ上連署建白等ノ挙動ニ及
ブ者有之時ハ其集會入員ノ多少ト會
場ノ如何ニ論ナク談条例ニ依リ處分
致シ可然手尾シ果シテ然ル時ハ國安
妨害ノ説ニ非サレハ連署建白等ノ舉
動ニ及フト虽モ不同ニ措キ可然哉

說明 十三年五月十五日

認可ヲ受ス政治ニ関シタル事項ヲ論
議スル爲リ集會シタルモノナルニ付
其建白等ノ國安ニ妨害アルト否トシ

問ハス總テ例第十條ニ依リ處分スヘ
キモノトス

滋賀縣質問_{轉致} 十三年五月五日

説教又ハ軍談講釋或ハ昔詔興行ノ
際談論偶々政論ニ及フ如キハ元來政
治ニ関スル事項ヲ講談論議スル目的
ニ出ルニアラサルヲ以テ國安ヲ妨害ス
ルト否トニ拘ハラス條例第十條ニ照
シ處分スルノ限ニアラサル義ニ候哉

說明 十三年六月七日

説教又ハ軍談講釋等ニテモ國安ヲ妨
害スル如キハ其情状ニ依リ條例第十
條ニ據リ處分スルヲモ可有之儀トシ

得ヘシ

滋賀縣質問^{内務省}三十二年五月五日

政治ニ関スル事項トハ内外國ノ別ナ
リ當今ノ政治ニ関スル事項ヲ指ス儀
ニテ人民ニ國法ヲ熟知セシムル為メ
公衆ヲ集メ現行ノ法律規則其他布告
違等ヲ講談シ又ハ講學ノ為メ結社シ
テ内外國ノ法律歴史等ヲ論議スル
如キハ事政治ニ関スルモ此條例ニ関
係無之儀ト相心得可然哉
新聞紙雜誌等ヲ講談評論スル為
メ公衆ヲ聚メ又ハ結社セントスル時
ハ集會條例ニ依リ届出テ認可ヲ受

クヘキ儀ニ候哉

説明 十三年六月廿一日

第一条 其見解ノ通

但外國ノ政治ノミニ関スル事項ハ
講談論議スルハ本例ノ限ニアラス

第二条 本例ニ依ルヲ要セス

長寄縣質問^{内務省}三十二年四月廿六日

第一条ニ政治ニ関スル事項トアルハ
現ニ我國ニ施行シアル所ノ政法或ハ
各府縣ニテ制定シタル現行ノ施政具
他外國ノ政法ト虽モ引用シ来リテ當
ニ我國ニ施行スヘシト説クカ如キモ
ノヲ指シタル義ニテ單ニ外國ノ政治

本邦ノ古政ヲ講スル等ハ此政事學外
ト相心得可然哉

今般十三号公布ノ旨ニヨレハ從前集
會結社候者モ右條例ニ依リ更ニ可届
出ト有之然ルニ政治ニ関スルモハ
一般此條例ニ照ス勿論ニ候得共既往
自今共右ノ趣意ト異ニシテ只道德修
身ヲ旨トシ又ハ風教ヲ維持シ尚學ヲ
主トスル等ノ説ヲナシ要スルニ自己
當務ノ本ヲ立推テ世ノ衰勢ヲ挽回セ
ルトスルカ如キ為メ集會結社講談
論議ハ此集會條例外ニ合キ可然哉

（說明）十三年六月廿二日

第一條第二條共其見解ノ通

（愛媛縣質問）

（内務省ヨリ）十三年五月十一日

○十五年六月廿七号布
告ニ依リ不要ノ質問
ニ屬ス

此ノ條例ハ單ニ集會條例ト有之而シ
テ第三條ニ政治ニ関スル事項ヲ九
字無之ニ付或ハ社會一切ノ集會ハ總
テ此ノ條例ヲ以テ檢束スルモノニ似
タレトモ亦第一第三條ニ政治ニ関ス
ル事項ヲ講談論議スル云々ト有之ヲ
見レハ此ノ條例ハ專ラ政治上ニノミ
関スル講談論議ノ集會條例ニシテ第三
条ハ全ク前ノ兩條ヲ受ケ未集會ニ定
規アル例ヲ掲ラレタル者ノ如シ就テ
ハ其他ノ集會ハ總テ此條例ノ外ト相

心得可然哉

條例第一条届方ニ講談論議ノ事項
講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所
年月日ヲ詳記シ云々ト有之處右事項
トハ單ニ題目ノミト見倣シ仮令ハ概
論國會議又ト云フカ如キモノトナス
ハ此三論題中ニモ亦各種ノ講談モ
可有之ニ付全ク論者ノ所説ヲ聞キ終
リタル後ニ非ナレハ豫メ論旨ノ如何
ヲ認定シ難キヲ奈何マシ依テ事項ト
ハ講談論議ノ細条ニ迄及フ者ト見倣
シ仮令ハ概論ノ細条ニ至ラザルカ
ラテ講談ノ第一口其事柄ヲ詳細ニ記載セ

シムル欽或ハ講談論議スル所ノ草按
ヲ出シタル等ヲ以テ許否致シ苦シカ
ラス候哉

政治ニ関スル講談論議ノミヲ目的ト
セスシテ只人民ノ知識ヲ擴メ其他人
間有益ノ事ヲ説カシカタメ公衆ヲ集
メ演説若クハ講談ヲナスカ如キハ全
ク此条例外ト相心得候へ共右等ノ集
會ト虽モ演説中故意又ハ諂勢ノ然ラ
シムル所ヨリ偶談論政治上ノ事ニ及
フフナキヲ保シ難シ就テハ明治十一
年十二月御省番外御達集會取締方警
察官心得ハ依然存シ居候モノト見テ

取締致シ可然哉將夕右番外御達ハ今
 般御頒布ノ條例ニ抵觸スルヲ以テ其
 政治上ニ関スル部分ノニ自然消滅シ
 自今ノ様ノ場合ニ於テハ直ニ條例ニ
 照シ該會ヲ停止シ相當處分致シ可然
 哉
 學校ニ於テ學業研究ノ為メ生徒ノ課
 業ニ辯論會等ヲナスニ往々議論ノ國
 政上ニ係ルヲアリ個ハ全ク教育ノ事
 ニテ政議論議ノ目的ニアラサルヲ以
 テ被令及至其他ノ傍聴ヲ許スヲアリ
 之無論此ノ條例及却者番外御達ノ外
 心持可然哉

説明 十三年六月三十日

第一條 其見解ノ通

第二條 題目草按等ニ拘ハラズ其事

項ノ主旨ヲ解シ得ルニ止ル

第三條 前段見解ノ通

第四條 辯論會ヲ開クハ妨ケナシト

魚モ其傍聴ヲ許スハ相成ラサル義ト
 思考ス

島根縣質問 十三年六月廿五日

此條例ハ我國現行ノ政治ニ関スル事
 項ヲ講談論議スルモノ、為メニ設ケ
 ラレタル義ト相心得可然乎

第一條講談論議ノ事項トハ講談論議

ノ題目ト云フモ同一ナル乎将々講談
論議スル所ノ主意ト云フノ謂ナル乎
教導職ニ非ラサル者衆ヲ集メ宗教或
ハ心学ニ関スル事項ヲ講談論議スル
等ハ勿論無妨乎

説明 十三年七月二十七日

第一條 其見解ノ通

第二條 題目ト主意書トヲ問ハス
其事項ヲ解シ得ルニ止マル

第三條 其見解ノ通

司法省質問 水戸裁判所ヨリ同省ヘノ十三年七月九日
伺文ヲ以テ質問

第一條ニ政治ニ関スル事項ヲ講談論
議スル為メ公衆ヲ集ムル者云々同第

八條ニ政治ニ関スル事項ヲ講談論議
スル為メ其旨趣ヲ廣告シ云々トア
リ右事項旨趣ノ區別事項トハ論題標
目ノ謂ニシテ旨趣トハ其理由ノ謂ナル
欲将々事項旨趣同一主義ニシテ均シ
ク論題標目ヲ指シタル儀欲前項ノ如
ク解釈スレハ論題標目ノ理由ヲ廣告
スルハ大人ヲ誘導教唆シ或ハ公衆
ノ安寧ニ妨害ナキ能サルヲ以テ廣告
ヲ禁セラレタル義ト考慮セララル者シ
後項ノ如ク解釈スレハ其論題標目ハ
既ニ警察官ノ認可ヲ經公衆ノ傍聴ヲモ
准ナレハ儀テハ廣告スルモ敢テ障

當之レナキ儀歟

説明 十三年十月五日

政治ニ関スル事項ハ政治ニ関スル事
件ヲ汎言シ講談論議ノ事項ハ警察官
於テ其旨趣ヲ解シ得ハキモノヲ云
フ故ニ論題標目ト雖モ其旨趣ヲ解シ
得ハキモノ然ラ後ノ事項中ニ包含セ
ルニ就テハ論題標目モ其旨趣ヲ解シ得
ハキモノハ第八條ニ依リ廣告ヲ許
スヘカラサル義ト思考ス

司法省質問 十三年十月十二日

大分縣令西村亮吉ヨリ政治ニ関スル
事項ヲ講談論議スルニ非スシテ公衆

ヲ集メ講談論議中語氣改談ニ涉ル者
及ヒ講談論議者ハ政治ニ関セサル見
込ニテ講談論議スルモ其実改談ニ涉
ル者處分ノ優別紙ノ通伺出候右ハ講
談論議中語氣改談ニ涉リ及ヒ講談論
議者ノ見込ハ政談ニアラサルモ其実
皆政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル
者ハ集會條例第十條ニ依リ處分スヘ
キ哉果シテ然ラハ警察官ノ告発ニ
限リ處分ニ及フヘキ儀ニ候哉

別紙大分縣ヨリ司法省ヘ伺

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル
為メ公衆ヲ集ムルモノ定規ノ如ク管轄

警察署、認可ヲ受ケスミテ集會スル者其ノ會主會長幹事及講談論議者ヲ處分スル義ハ該條例第十條ニ明文アリト雖モ政治ニ関スル事項ヲ講談論議スルニ非スシテ公衆ヲ集メ講談論議スルニ講談論議中其語氣政談ニ涉ル者及ヒ講談論議者ハ政治ニ関セサル見込ニテ講談論議スルモ其実政治ニ関スル講談論議ニ涉ル者ト警官又ハ臨會人ニ於テ認ルル如キハ如何處分シ可然哉

（説明）十三年十月廿二日

講談論議中政談ニ涉ルモノト確認シ

タレ片ハ一般ノ取締上ヨリ之ヲ解散セシムヘシ

（内務省質問）

滋賀縣ヨリ同者ノ十三年九月廿一日
伺文ヲ以テ質問

集會條例ノ義ニ付相伺候處右ハ法律ノ説明ニ屬スル趣ヲ以テ同六月廿一日付ニテ法制部ヨリ逐條回答有之候然ルニ本伺第二條ニ新聞紙雜誌等ヲ講談論議スル為メ公衆ヲ集メ又ハ結社セントスル片ハ集會條例ニ依リ届出認可ヲ可受儀ニ候哉トアルニ對シ本例ニ依ルヲ要セスト回答有之候得共新聞紙雜誌等ノ如キハ間々政事ニ関スル事項ヲ論スルモノ有之就中雜誌

雜ノ内ニハ政治ニ関スル議論ハ勿論
官吏ノ動靜等ニ至ル迄評論或ハ暗刺
スルモノ常ニ多ク專ラ時事ヲ論スル
ノ目的ニアルモノナレハ尋常學術上
ノ講談又ハ軍談昔噺等ノ類トハ同シ
カラス其質矢張集會條例ニ依ルヘキ
モノニ無之候哉

説明

十三年十一月九日

講談評論中國安ニ妨害アリト確認
シタルハ一般ノ取締上ヨリ之ヲ解
散セシムヘシ

立内外古今ノ書ニ就キ講談論議ニ聽
衆ハ皆其會盟乃キ懸賞ヨリハ如キ集
會モ總テ本条例ニ照シ處置スルハキモ
ノニ可有之哉

〔説明〕十三年六月廿二日

條例ノ限リニ非ス

但若シ其挙動民心ニ妨害アリト視
察スルトキハ明治十一年第二十九
号達ニ依リ處分スヘキモノトス

〔島根縣質問〕十三年六月廿五日

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為
結社スル者結社前認可ヲ受クルノ
成規ニ拠レハ認可ヲ受ケサル以前ハ

社名ヲ公称スルヲ得ス從テ社長等ノ
役員モ無之筈ニ付本條ノ届書ハ結社
セントスル者一同又ハ惣代委員等ヨ
リナスヘキト思量スルモ第十一條ニ
於テ本条ノ定規ニ違ヒタル責ヲ一ニ
其社長ニ歸スルノ點ヨリスレハ認可
前社長等ノ役員ヲ定メサルヲ得サル
モノ、如シ右ハ如何相心得可然乎
同條ノ成規ニ違ヒ社則ヲ改正シ又ハ
社員ノ出入アルトキ届出サレハ其
社ハ認可ヲ受ケスシテ結社セシモノ
ト同視シ解散セシメ可然乎又ハ改則
社員ノ出入ヲ改メテ届出且第十一條

ノ処分ヲ受テ必以以上ハ談社ノ解散
ヲ命スルニ及サレ乎

説明 十三年七月廿七日

第一條 結社スル者ハ豫メ社長等々
ルヘキ者ヲ定メ認可ヲ受クヘキモ
トス

但其認可ヲ受ケサル間ハ社名ヲ公
稱スルヲ得サルハ其見解ノ通

第二條 改則及ヒ社員ノ出入ヲ届出
テサレトキハ第十一條ニヨリ處分ス
ルニ止マル

〔内務省質問〕十三年七月二十日

政談ノ為メニ結社スル社員演説開場

中へ社員外ノ者加リ演説スル義ニ付
別紙寫ノ通り宮城縣ヨリ伺出候右ハ
結社ノ性質ニ悖リ候所為ニ付不相成
儀ト心得可然哉亦ハ條例第一條ノ手
續ヲ履行スルニ於テハ指圖無之哉

別紙宮城縣ヨリ内務省へ伺電報
政治ニ関スル講談論議スル為メ結社
シタル社員外ノ者加ハリ演説スルハ
認可セサルモト心得然ルヘキ哉

説明 十三年七月廿七日

政談會演説開場中へ社員外ノ者相
加リ演説スルノ儀ハ前段見解ノ
通

〇五年論議世考布
市修不更會同
屬ノ

司法省實司 十三年八月廿四日

鹿見島縣令渡邊千秋ヨリ集會條例ノ
義ニ付別紙ノ通同出候右ハ同ノ通ニ
テ可然哉

別紙鹿見島縣ヨリ司法省へ同電報
政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為
メ社名ヲ用ヒス何談何組何會何同盟
ト唱ヘルモノ集會條例第二條ノ結社
ト同視処スヘキヤ

説明 十三年八月廿六日

其見解ノ通

本條ニ関シ靜岡縣實司
了リ身志存參首

第三條

講談論議ノ事項講談論議スル人負會場及
會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日
前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾
後ノ例會ハ届出ニ及ハストモ之ヲ變更
スルトキハ第一條ノ手續ヲ為スヘシ

〔警視本署質問〕十三年四月二十日

第三條ニ講談論議ノ事項云々トアリ
右事項トハ講談論議ノ題目ニ候哉若
クハ草按ニ候哉又同条中ニ定規アル
者云々トアリ假令社員ノモノ集會ト
モ其事項ヲ變更スルトキハ認可ヲ

得へキ義ニ候哉

〔説明〕 十三年四月廿三日

前項ハ題目又ハ章按ニ拘ハラヌ其事
項ヲ解シ得ルニ止ル後項ハ其見解ヲ
以テ化当トス

〔島根縣質問〕事務者ヨ 十三年五月九日

第三條ハ第一條ノ定規アルモノ、届
出方ツ示サレタルモノニテ其届出ル
ニハ無論第一條ノ如ク講談論議ノ事
項講談論議スル人ノ姓名住所等モ詳
細届出ツヘキ義ニ候哉

〔説明〕 十三年六月廿二日

其見解ノ通

〔島根縣質問〕 十三年六月廿五日

第三條ニ講談論議ノ事項云々之ヲ變
更スルキハ第一條ノ手續ヲナスヘシ
トアリ右變更アルトキハ其變更ノ部
分ノミ第一條ノ手續ヲナシ可然處若
其手續ヲナシ、ルキハ認可ヲ受ケサ
ル集會ト同視シ其社ヲ解散セシノ可
然乎又ハ變更ノ部分ヲ改メテ届出且
第十條ノ處分ヲ受ケタル以上ハ該社
ノ解散ヲ命スルニ及ハサル乎

〔説明〕 十三年七月廿七日

其變更ノ部分ノミ第一條ノ手續ヲナ
スヘキモノトス若シ其手續ヲナサハ

大正
正
正
正

○十五年六月廿七日第廿七号布告改正
第四條 管轄警察署ハ
第一條第二條第三條ノ
届出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セサルヘシ
モ之ヲ取消スネトアルヘシ

第四條

管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出テニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セサルヘシ

〔千葉縣質問〕 十三年四月二十日

第四條中ニ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セサルヘシト有之候
処右ハ最初第一第二第三條ノ手續ヲ為スニ事項ノ題目ノミヲ記載届出ルモ右判別難相成ニ付其事項ノ旨趣ヲ一々論說ニ記載届出サセタル后治安ニ妨害アルヤ否ヲ審査ノ上認可候義

ト相心得可然哉

〔説明〕 十三年四月廿四日

題目又ハ論說書ニ拘ハラズ其事項ヲ
解シ得ヘキモノニ就キ審査スルヒト
トス

〔石川縣質問〕 十三年四月十五日

第四條ニ國安ニ妨害アリト認めルト
キハ之ヲ認可セザルヘシトアルハ凡
ソ左ノ事項ニ依リ儀ト心得可然哉
一 人民ヲ教唆煽動シテ國法ヲ怨忌
セシメ或ハ官吏ヲ疾視セシメ又
ハ政府ヲ怨望セシムルノ類
一 秘密ノ誓約

一 強訴ノ企

一 嘯聚ノ類

〔説明〕 十三年四月廿八日

國安ニ妨害アルノ事項ハ豫メ定メカ
タシ

〔石川縣質問〕 十三年五月廿七日

第四條ノ精神ハ第二條第三條ノ届出
ヲ既ニ認可シタルモノト雖モ後日敷
會ノ演述ニ於テ國安ニ妨害アル場合
ニ在リテハ前ノ認可ヲ取消シ又ハ後
會ヲ停止スルヲ得ヘキヤ

〔説明〕 十三年六月一日

例第六條ニ依リ全會ヲ解散セシムヘ

○十五年説明第七号
布告ニ依リ不要ノ質問
ニ属ス

千五ノト又

長崎縣質問

内務省ヨリ轉致

十三年四月廿六日

第四條ニ管轄警察ハ古々國安ニ妨害
アリト認ムルキハ之ヲ認可セリルヘ
シト有之就テハ当該警察官ニ於テ
表面正のニ其妨害ヲ見サレモ冥々中
我國體國政ヲ汚損シ人心ヲ迷惑スル
モノアリト見認ルトキハ認可セス或
ハ退去ヲ命シ可申マ果シテ然ラハ不
認可又ハ退去ヲ命シタル後ニ於テ集
會社員ヨリ其理由ヲ伺出ルモ別段辨
明指令ニ及ハサル義ニ候哉

〔説明〕

十三年六月廿二日

其見解ノ通

島根縣質問

十三年六月廿五日

第四條國安ニ妨害アリト認メ認可セ
サル場合ニ於テ其認可セサル理由ヲ
伺出ルモ辨明セスシテ可然乎又ハ口
頭若クハ唇面ニテ辨明スルモ無妨乎

〔説明〕

十三年七月廿七日

辨明スルト否ヲサルトハ官廳ノ見込
ニ任スヘキモノトス

○十五年請第廿七号布告追加

第五條 二項

警察官會場ニ入ルトキハ
其求ムル所ノ席ヲ供シ且其
尋問アルトキハ結社集會
ニ関スル下ハ何事タリトモ
之ニ答辨スヘシ

第五條

警察署ヨリ正服ヲ著シタル警察官ヲ
會場ニ派遣シ其認可ノ証ヲ検査シ會
場ヲ監視セシムルヲアルヘシ

千葉縣質問

十三年四月廿日

第五條會場ヲ監視セシムルフト有之
候處右ハ開會中毎日警察官於テ始終
監臨為致候テハ僅少ノ官員ニテ部内
數ヶ所開會スルモノアルニ當リテハ
差支可有之ニ付時々會場ヲ監視ノ為
メ派遣セシムルモ差支無之筋ニ候哉

説明

十三年四月廿四日

其見解ヲ以テ允当トス

〔石川縣質問〕十三年四月十五日

第五條ニ正服トアルハ明治八年十一月百九十四号公達ノ制服ト心得可然哉果シテ然ラハ通常會場ニ監臨視察スルトキトモ必ズ該正服ヲ着用スル義ナル哉

〔説明〕十三年四月廿八日

其見解ヲ以テ允当トス

〔埼玉縣質問〕十三年四月廿九日

第五條警察署ヨリハ正服ヲ看ミタレ警察官ヲ派遣シトアリ其正服トハ徽章アル制服ノ謂ナリヤ將タ他正服

ト指称スヘキモノアル哉

〔説明〕十三年五月七日

徽章アル制服ヲ指シタルナリ

〔愛知縣質問〕十三年四月二十日

會場ニ臨檢スル警察官吏ハ役令居室内トモ脱着ハ勿論脱帽ニモ及ハサルモノニ候歟

〔説明〕十三年五月十日

脱帽スルニ及ハストモ脱着ハ場所ニヨリ用捨スヘキモノトス

〔大分縣質問〕十三年四月廿八日

第五條中警察官トアルハ無論警部巡查ヲ總称セルモノト心得可然哉

説明 十三年五月十五日

警部補以上ヲ指称スルモノトス
但巡查ハ警察官ニ準スヘキ儀ト思
考ス

〔島根縣質問〕十三年六月廿五日

第五條ノ場合ニ於テ警察官ノ臨席ヲ
肯ニセザルトキト虽モ余例中明文ナ
キヲ以テ全會ヲ解散スルヲ得ザルヲ

〔説明〕十三年七月廿七日

事宜ニヨリ一般警察上ノ処分ニヨリ
当日ノ會ヲ解散セシムルヲ得ル儀ト
思考ス

第六條

派出ノ警察官ハ認可ノ証ヲ開示セサルト
キ講談論議ノ届書ニ掲ケサル事項ニ亘ル
トキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意
ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認
ムルトキ及集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去
ヲ命シテ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散
セシムヘシ

但本條ノ解散ヲ命シタルトキハ其情状
ニヨリ東京ハ警視長官其他ハ地方長官
其結社ヲ解散セシメ又ハ其管轄内ニ於
テ一ケ年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事
ヲ講談論議スルフトラ禁スルヲ得ヘシ

○十五年三月第七号布告ヲ以
テ第六條但各廢止
○同年四月第七号布告並加
第六條ニ項
前項ノ場合ニ於テ解散
ヲ命シタルトキ地方長官
東京ハ其情状ニ依リ演
説者ニ對シ一ケ年以内
管轄内ニ於テ公衆

第一條見解ノ通第二條會員ト傍聴
トシ同ス然ラ會場ニ臨ムヲ得ル義
トス若シ其者臨會スルトハ之ヲ退
去セシムヘキ旨ヲ會主會長等ニ命シ
會主會長等其命ニ從ハカリトハ余
會ヲ解散セシムヘキモノトス

〔愛知縣實例〕十三年四月廿日

第六條〔前略〕全會ヲ解散セシムヘシ
ト有之ハ当日ノ集會ヲ解散セシム
ルニ止ル義狀將ツ該會ノ認可ヲ取
消スノ意ニシテ尚ホ其認可日ノ余リ
アルモ再會セシムルヲ差止ル義ニ
候歟

〔說明〕十三年五月十日

後段見解ヲ以テ先當トス

〔愛知縣實例〕十三年六月十二日

第六條ノ末項集會ニ臨ムヲ得ル者
ニ退去ヲ命シテ之ニ從ハカルルハ全
會ヲ解散セシムルトアリ右ハ第七條
中ノ制限アル輩臨會スト雖モ解散迄
ノ処分ニ止ル字將ツ解散セシメタル上
第十四條ノ処罰ニ及ホスヘキ乎

〔說明〕十三年六月十七日

其全會ハ之ヲ解散セシムルニ止ルト
雖モ第七條ノ制限ヲ犯シ臨會ニタル
モノハ第十四條ニ依リ処分スヘキモノトス

小坂野村議事録
昭和十三年六月廿二日

坂縣實同

内務省ヨリ

十三年五月廿九日

第六條ニ派出警察官ハ認可ノ証ヲ示セザルトハ講談論議ノ屆否ニ揚クサル事項ニ直ルハ又ハ七々全會ノ解散セシムヘシト有之候令爰ニ日敷三日間演說開會スルニ其演說ノ事項ヲ一日毎ニ區別シ届出テ認可ヲ受ケ初日ハ届出ノ通演述シ畢リ翌日ニ至リ突然前日ニ演殘セリトテ前日ノ事項ヲ湖說スルモノアラニ當日其由ヲ派出ノ警官ニ届出スレハ支籍ナシト雖モ其儀ナキハ届書ニアル前日ノ事項ハ消滅シタルモノニ付届唇ニ掲ケ

サレ事項ニ直ルモノト同シノ全會ヲ解散セシムハキ儀ニ候哉

〔説明〕十三年六月廿二日

其見解ノ通

〔滋賀縣實同

内務省ヨリ

十三年五月五日

第六條ニ依リ集會ニ臨ムヲ得サレモノニ退去ヲ命シ之ニ從ハサレトキハ會主會員ニ於テ臨會スルヲ得サレモノタルヲ知ラサレモ尚ホ全會ヲ解散セシムル義ト相心得可然哉

〔説明〕十三年六月廿一日

集會ニ臨ムヲ得サレモノヲ退去セシムルハ之ヲ會主會長等ニ命シ會主

此後開教館中第二
條
協同
ハカ
カ

會長等其命ニ從ハサルハ全會ヲ解散
セシムヘキモノトス

島根縣質問 十三年六月廿五日

第六條ノ場合ニ於テ全會ヲ解散セシ
ムルハ當日ノ集會ヲ解散セシメテ
又ハモノハ其社ヲモ解散セシムルノ
主意ナルヲ果シテ然ルキハ本條ニ所
謂集會ニ臨ムヲ得ザルモノトハ講談
論議者ニシテ第七條ノ禁ヲ犯シタル
モノヲモフ子若シ聽衆ノ内第七條ノ
禁ヲ犯シタル者有之キモ本條ニ依リ
処分スルノ旨ナリトモハ聽衆ノ為
メニ其社ノ解散ヲ命スル如何ノ理由

十ノ子

〔說明〕 十三年七月廿七日

第一段第二段其見解ノ通身三段聽衆
ノ内第七條ノ禁ヲ犯シタル者カ
キハ社長等ニ之ヲ退去セシムヘキ
トテ命シ社長等之ヲ罷ムトキ罰スル
ノ法トス

○埼玉縣 明治十五年六月六日
 第七條ノ制限ヲ犯シテ臨會
 マシモノアリシヲ監臨ノ警察官
 ニ於テ之ヲ認知スルヲ得ス後日
 ニ至リ右制限ヲ犯シタル者ノ
 榮西路セシキハ條例ヲ十四條
 ニ依リ処分スヘキカ得テ非現
 行犯ニ係ルヲ以テ不同ニ置
 クハテモノナルヤ
 詔 明治十五年 郵
 政 改正見解ノ通

第七條

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル集會ニ
 陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル者警
 察官々立公立私立學校ノ教員生徒農業工
 藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入
 スルコトヲ得ス

（静岡縣質問）

十三年四月十日

第七條ニ臨會ト有之ハ會場ニ於テ臨
 時講談論議スルヲ指シタル義ニシ
 ヲ傍聽者ヲ指シタル義ニハ無之義ト
 相心得可然哉

（詔）

十三年四月十四日

臨會スルヲ得カレトスルハ講談ト傍

總トヲ問ハス其會場ハ臨ハリ得リ
逐意ト思考マ

大坂府質問(註) 十三年四月十二日

第七條臨會シ又其社ニ加入セザル
リ臨會トハ傍聽スルヲモ出未サリ
ナルヤ

(說明) 十三年四月十三日

御意見ノ通

(岡山縣質問) 十三年四月十六日

第七條未行中臨會ニ云ハト有之臨會
トハ其會主會眞其他集會ニ関涉スヘ
キモノトナルヲ得サレフニシテ
客クルハ不苦義ニ心得可然哉

(說明) 十三年四月二十一日

集會ニ関涉スルト聽客トヲ問ハス都
テ會場ニ臨ハラ得サレモノトス

(内務省質問) 十三年四月十九日

第七條中警察官トハ警視警部巡查ノ
官名職名アルモノヲ指シ警視屬御用
掛雇ノ者ハ包含セザル歟

農業工藝ノ見習生トハ官私立ノ該學
校又ハ試験場等ニ在ルモノヲ之フ
歟

(說明) 十三年四月廿三日

第一條 警視以下警部補已上ヲ指稱
スルモノトス

但巡查ハ警察官ニ準シ可然義ト思
考ス

第二條 其見解ヲ以テ允当トス

〔千葉縣質問〕 十三年四月二十日

第七條集會ニハ陸海軍人常備豫備後
備ノ名籍ニ在ル者警察官公立私立
學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ
之ニ臨會スルヲ得サルコトニ候處其臨
會トアルハ該會場中ハ臨席聴聞致シ
候義ハ相成サル義ニ候哉又ハ會場ニ
臨ミ自カラ論議スル等ノ事ハ相成儀ト
候哉

〔説明〕 十三年四月廿四日

聴聞ト論議トヲ問ハス都テ會場ニ臨
ムヲ得サルモノトス

〔石川縣質問〕 十三年四月十五日

第七條ニ警察官トアルハ單ニ警部巡
査ヲ指スモノニテ其他行政官司法官
郡區吏警察用掛諸雇ノ如キハ其限ニ
アラサル哉

農業工藝ノ見習生トナルハ商法講習
所等ノ見習生ヲモ總稱スルモノナル
哉

第七條ニ之ニ臨會シトアルハ客員ト
ナリテ講談論議スルヲ立フ儀ニテ其
會場ニ至リテ聴聞スルヲ得サル

譯ニハ無之哉

〔説明〕 十三年四月廿八日

第一條 警部補以上ヲ指稱スルモノ
トス

但巡査ハ警察官ニ準スヘキ義ト思フ

第二條 法ニ明文ナキニヨリ規則第

七條ノ限リニアラス

第三條 容負ト聽問トヲ問ハス總テ

會席ニ臨ムヲ得サルモノトス

〔神奈川縣質問〕 十三年四月廿六日

第七條 中農業工藝ノ見習生トアルハ

何等ノ者ヲ指シ候義ニ候哉

〔説明〕 十三年五月七日

官私立ノ農工學校又ハ製作所試験場
等ニ在ル者ヲ云フ

〔高知縣質問〕 十三年四月廿七日

第五條第六條ニ掲ケタル警察官ハ警

部以上ト信シ候得共第七條ノ警察官

ニ到テハ少ク疑ナキ能ハス然レトモ

既ニ警察官トノミ掲ケラレシ上ハ巡

査ハ其範圍外ニ屬シ隨意ニ臨會又ハ

結社入社スルヲ得ルモノト解釋シ可

然哉

〔説明〕 十三年五月七日

警部以上ヲ指稱スルモノトス

但巡査ハ警察官ニ準スヘキ義ト思

考ス

〔埼玉縣質問〕 十三年四月廿九日

第七條政治ニ関スル事項ヲ講談論議
スル集會ニ陸海軍人常備隊備後備ノ
名籍ニ在ル者警察官ヲ立合立私立學
校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之
レニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルヲ得
ストアリ然レハ之ニ明示セサル他ノ
官吏及準官吏ハ限外ナルヤ

〔説明〕 十三年五月七日

其見解ノ通

〔愛知縣質問〕 十三年四月二十日

第七條ニ前略之ニ臨會シ去々右臨會

トハ其會員ハ十ノ義ニミテ聽衆ノ
フニハ有之間敷歟

〔説明〕 十三年五月十日

會員ト傍聽トヲ問ハス總テ會場ニ臨
ムヲ得サルモノトス

〔大分縣質問〕 十三年四月廿六日

第七條中公私立學校教員生徒去々ト
アリ私塾私舎校名ヲ稱等ニシテ生徒
ヲ教育スルモノモ私立學校ニ包含セ
ルモノト心得可然歟

臨會トアルハ傍聽モ不相成義ト心得
可然歟

〔説明〕 十三年五月十五日

第一條 校名ヲ梅セサレモ教育會
二十三條ニ依リ教則ヲ閣申シタル
會ハ包含スルモノトス

第二條 其見解ノ通

〔福島縣質問〕 十三年五月十四日

第七條中農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨
會ニ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ル
ト有之候処其臨會ト云フハ講談論議
スル場所ニ立入傍聴スル儀ニ不相成
儀ニ候中且農業工藝ノ見習生トハ實
際何等ノ者ヲ指テ見習生ト稱スルキ
ヤ後令ハ製絲會社等ノ如キハ官ノ認
可ヲ得タル一ツノ工場等ニテ其工業

ヲ修行スル者ヲ指スカ又ハ一家一人
ノ弟子則チ大工職ノ弟子ノ如キモ又
工藝ノ見習生ト見做シ可然乎

〔説明〕 十三年五月廿一日

前段臨會云々ハ其見解ノ通後段農業
工藝ノ見習生トハ官私立ノ學校又ハ
製作所試験場等ニアルモノト云フ

〔福島縣質問〕同注前 十三年五月廿一日

第七條ニ云フ陸海軍人常備豫備後備
ノ名籍ニ在ル者警察官官立公立私立
ノ學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ
之ニ臨會シタルトハ自ラ講談論議ス
ルノミニ止マラズ單ニ其會場ニ在テ

他人ノ談論ヲ傍聴スルモ仍本其制限
ヲ犯シタル者ト相心得可然哉

農業工藝ノ見習生トハ仮令ハ官ノ然
可ヲ經テ設立セル農業試験場製絲會
社等ニテ授業ヲ受ル者ニ限リ大工鍛
冶等ノ弟子ト稱スルハ範圍外ニ在ル
者トスルヲ將又百工技藝ノ人師弟ト
稱スルヲ得ヘキモノト別見習生トナ
シ其罪ヲ問フ義ト相心得可然哉

〔說明〕

十三年六月十四日

第一條 其見解ノ通

第二條 農業工藝ノ見習生トハ官私
立ノ學校又ハ製作所試驗場等ニアリ

モノニ限ル

〔滋賀縣質問 附答〕 十三年五月五日

第七條ノ臨會トハ會員トナリ講談論
議スルハ勿論只々聽問ノ為ノ其場ニ
臨ムコトモ一切不相成義ニ候哉果シ
テ然ラハ會員ハ勿論其場ニ臨ム公衆
ノ身久精密取調ノ方法ヲ設ルニア
ラサレハ監臨警察官ハ勿論會主會長
ト雖之ヲ識別スルハ甚々困難ノ次第
ニ有之假令一々身久取糾スモ何歟其
証據ヲ開示スルニアラサレハ詐言以
テ一持其場ヲ遁ルモ知ルヘカラス
依テ政治ニ関スル事項ヲ講談論議ス

ル會場ニ臨ムモノハ出席ノ都度條例
第七條ニ抵触スルモノニアラザル旨
明記シタル本籍戸長ノ保証状ヲ出張
警察官へ差出スニアラサレハ一切臨
會ヲ許サ、ル旨布達ニ取締ノ方法
ヲ設クルモ別段御差支ノ慮ハ無之儀ヤ

〔説明〕

十三年六月廿一日

會實ト傍聴トヲ問ハス總テ臨場スル
ヲ得サルモノトス
但別ニ取締ノ法ヲ設ルヲ得ス

〔長寄縣實問〕

（内務省）
十三年四月二十六日

第七條ニ陸海軍人常備豫備ノ名籍
ニ在ル者警察官官立私學校ノ教員

生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會ニ
又ハ具社ニ加入スルコトヲ得スト有
之地官吏ノ明文無之候へ共右ハ去明
治十二年五月九日附太政大臣ヨリ被
相達タル通相心得可然ヤ又官私立學
校ニハ校長幹事等ノ職實ヲ設ケ教員
ト異ナルモノアリ是等モ無論教員ト
同ク臨會加入スルヲ得サルモノト
心得可申哉

〔説明〕

十三年六月廿二日

其見解ノ通

〔石川縣實問〕

（内務省）
十三年六月廿六日

戸長又ハ學務委員ニシテ政談講議ノ

社へ加入シ又ハ傍聴スルハ法ニ明カ
ナキヲ以テ差支ナルヤ

説明

十三年六月廿九日

戸長ハ明治十二年五月九日無号達ニ
據リ加入スルヲ得ス其他差支ナシ

愛媛縣實問

内務省
ヨリ轉致

十三年五月十一日

第七條陸海軍人云々ハ之ニ臨會シ又
ハ入社スルコトヲ得スト有之處臨會
トハ總テ會場ニ臨ムノ謂ニシテ傍聴
ヲモ含有致后候哉

但該條ニ文官ノ制限無之處右ハ明
治十二年五月九日太政官御達ニ依
リ無論其所屬長官ノ取締ヲナスヘ

キ儀ト心得可然哉

説明

十三年六月三十日

本條矣ニ但書共其見解ノ通

島根縣實問

十三年六月廿五日

勅奏官位及勲六等以上ノ者條例第七
條ノ禁ヲ犯シ集會ニ臨ミタルトキハ
凡人ト同シク警察官ニ於テ直ニ退去
ヲ命シ無妨手

第七條中ニ明文ナキ他ノ官吏ハ臨會
又ハ入社スルモ條例ノ振束ニルルニ
無之手果シテ然ラハ明治十二年五月
九日太政官ノ達ハ條例ニ據テ消滅シ
タルモノト相心得可然手

但該連ハ仍カ存続スルニシテ
其教導職ノ如キハ達中ニ會考セ
ル事

説明

十三年七月廿七日

第一條 凡人ト勅奏官位及勲六等
以上ノ者トシテ問ハズ集會ニ臨ムヲ得
ザル者ハ其會主ニ命シテ退出セシム
ヘシ

第二條 明治十二年五月九日太政官
達ハ消滅セズ故ニ條例第七條ニ明文
ナキ他ノ官吏ハ傍聽スルヲ得ルトモ
モ演説又ハ入社スルヲ得ズ

但シ教導職ハ準官吏ソルヲ以テ本

文ニ依ルヘキモノトス

文部省質問

十三年十月三十日

條例中教員ノ儀ニ付別紙電報ノ通伺
出候処公立小學校ノ教員ハ教育令掲
載ノ通師範學校ノ卒業證書ヲ得ル
モノ若シハ卒業證書ヲ得スト雖モ府
知事縣令ニ於テ教員相應セル學力
ヲ證明セシモノニ限り又公立小學校
ヲ除クノ外公立學校ノ教員ハ府知
事縣令ニ於テ教員タルヲ公認セシモノ
及ヒ私立學校ノ教員ハ府知事縣令ニ
関申セサルモノヲ以テ教員ト認ムル
儀ニテ右等卒業證書或ハ證明書ヲ有

其前項ニ適用セザルモノ
 受テニ勅子受業生瀧舟ノ名義以
 ニ請學校ノ授業ニ從事スト雖モ
 教育ノルノ權利無之モ、取扱ヒ
 来候右ノ他ノ法律ニ就テモ教員ト
 稱スルモノ、同様タルハ儀ト思考致
 シ候然レ處集會條例ニ掲載ノ教員ハ
 總テ學校ニ於テ教授ニ従事スルモノヲ
 包含スルハ勿論ノ様相見候、可談伺
 ニ對シ其旨趣ヲ以テ可及指令存候
 処右等ノ者ヲ教員ト稱スルハ他ノ法
 律ト抵触候事一應及御質問候
 到致白紙録ニテ文部省一同擬

教育令徴兵令ニ掲グル教員トハ六
 學科ヲ教授シ得ヘキモノ、普通右
 稱ト確信ス然レニ集會條例教員ハ
 備教師等ヲ含蓄スルモノニ似タ
 リ區別如何

説明 十三年十一月九日

條例中教員ノ義ハ他ノ法律ニ掲載シ
 タルモノト殊ナルコトナシ但教授ニ
 従事スル者ハ總テ教員ト同視スヘシ

文部省質問 十三年十一月二十二日

條例中教員ノ條ニ付及御質問候處本
 月九日付御田答ノ趣致取テ然レニ
 御意書中但教授ニ従事スル者ハ總テ

教員ト同視スルニ付有之志ハ其ノ
 會條例ノニ限リ候儀事也然レ
 トキハ前田申候通法律上同義
 ノ者有之彼等抵觸ヲ免レテ
 候右ニテモ差支無之哉又ハ集會條例
 ニ限ラズ他ノ法律上教員ト同視スル
 處ニ於テモ總テ教授ニ從事スル者ハ
 之ト同視スヘシトノ儀事果シテ他ノ
 法律ニモ及フノ旨趣ニ候ハ、師範學
 校卒業證書ヲ所持セリル者ハ勿論府
 縣ニ於テ學力證明ヲ經ケル者トモ
 生等ニシテ兵役ヲ免レ又ハ小學校
 正ノ教員タルヲ得ルモノト相成候然

ルトキハ教育令第三十八條ニ抵觸シ
 徴兵令ニ對シテ都府生ニ候義ト存
 候條御答文中難ク解候ニ付其旨再
 應及御質疑候

説明

十三年十二月一日

条例中教員ノ義ハ最前田答、通但集
 會條例取締上ニ於テ教授ニ從事スル
 モノハ特ニ教員ト同視シ處分スヘキ
 モノトス

内務省質問

十四年一月十六日

神佛教導職ハ集會條例第七條中掲
 載無之ニ付政談演說禁止ノ例
 無之哉

（說明）

明治廿二年四月廿五日
勅令及ノ者凡トモ
勅令及ノ者凡トモ

（司法省發給）

十三年五月一日

山形縣令三島通庸ヨリ集會條例第七
條ノ儀ニ付別紙ノ通同奉送存同公
立學校長法律學社長及ニ農工藝社等
一舎ヲ設立シテ常ニ生徒ヲ教育スル
等ノ校長社長社員生徒ハ第七條教育
生徒ト同シク論ニ其他靴製造所治版
鑄造所等某社ト名稱スル類ノ工藝
所結社スル所ノ社長社員生徒或ハ常
ニ遊新ニ設ケニ臨時集會ヲシテ法律

學社等ト稱スル類ノ社長教育生徒ハ第
七條ノ教育生徒ノ限ニ非ストシ可然哉

別紙山形縣ヨリ司法省ヘ伺

條例第七條政治ニ関スル事項ヲ講
談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫
備後備ノ名籍ニ在ル者警察官々立
公立私立學校ノ教育生徒農業工藝
ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ
加入スルヲ得ストアリ右明文アリ
ルモノ、外官吏及ニ准官吏ハ申ス
ニ及ハス公立私立ノ學校長又ハ法
律學社長及ニ農業工藝社等ノ社長
社員ニ總テ臨會入社スルコト相成

カ下心像ニシテ此スモハ同條例第
下四條ニ依リ處分セラルハ其義ト心
得可也

(註明)

十四年五月廿八日

其見解ノ通

如
理
備

○十五年三月第二十七号布告改正

第八條 政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為

ノ其旨趣ヲ廣告シ又ハ

委員若シハ文書ヲ發シテ

公衆ヲ誘導シ又ハ他ノ社ト連

結シ及ヒ通信往復スルヲ得ス

○警視廳實例 明治十五年六月十三日

第八條 政治ニ関スル事項ヲ

講談論議スル為ノ其旨趣ヲ

廣告シ又ハ之候處右ハ其旨趣ヲ大略記

載ノ上 廣告スル義ニ候哉然ラハ其論

題ノミヲ廣告スル等ノ事ハ差支無之

筋ト相心得可然哉

（説明）

十三年四月二十四日

第八條

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為ノ

其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若シハ文書ヲ

發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ他ノ社ト連

結シ及ヒ通信往復スルヲ得ス

（千葉縣實例）

十三年四月二十日

第八條 講談論議スル為ノ其旨趣ヲ廣

告スト有之候處右ハ其旨趣ヲ大略記

載ノ上 廣告スル義ニ候哉然ラハ其論

題ノミヲ廣告スル等ノ事ハ差支無之

筋ト相心得可然哉

(説明)

十二年五月廿四日

第一條第二條其條例第八條其精神ニ依リテ相成務ト思考ス

(埼玉縣實問)

十三年四月二十七日

第一條其旨趣ヲ廣告ニ由リテ其旨趣トハ其説ノ旨趣ニシテ其演説ニシテ其旨趣ト号ハ之ニ包會也其旨趣ニシテ其旨趣ト

(説明)

十三年五月廿七日

第一條其旨趣ニシテ其旨趣トハ其旨趣ト

(愛知縣實問)

十三年四月二十日

第一條其旨趣ニシテ其旨趣トハ其旨趣ト

又ハ甲乙社員中合テ一ノ會場ニ於テ其旨趣トハ其旨趣ト

第一條其旨趣ニシテ其旨趣トハ其旨趣ト

(説明)

十三年五月廿日

第一條其旨趣ニシテ其旨趣トハ其旨趣ト

第二條其旨趣ニシテ其旨趣トハ其旨趣ト

(岡山縣實問)

十三年四月二十八日

第一條其旨趣ニシテ其旨趣トハ其旨趣ト

十三年四月二十八日

一全ノ表心ヲ顯動シ、廣ク連絡シ、
ナルヲ爲シ、裁判スル、各事ヲ行フ、然
ルニ本條ニ行ハレ、他、然ルニ、自
然ニ之、一カ表雖、スレ、スレ、ハ、
愛國社、一、二、或、一、志、社、ハ、自、自、
社、名、任、言、ヲ、異、ニ、獨、立、自、主、心、ニ、
ハ、ヲ、持、ス、ニ、外、十、三、又、若、果、ニ、キ、然、ト
ス、ハ、茲、ニ、政、治、上、ニ、関、ス、レ、一、柱、ト、リ、本
社、ヲ、東、京、ニ、建、テ、其、支、社、ノ、一、宇、長、壽、
大、阪、ニ、其、他、各、府、縣、ニ、配、置、シ、且、通、信
往、復、シ、テ、相、連、結、ス、ル、モ、ノ、リ、ト、
又、如、何、ニ、モ、モ、可、カ、ヲ、其、他、モ、ト、
シ、何、ト、ナ、レ、ハ、算、ニ、他、一、社、ト、ナ、リ、

ヲ、ナ、リ、若、シ、如、斯、ナ、リ、ハ、
〃法、章、ノ、以、テ、之、意、ニ、賛、法、廷、章、ニ、屬、ス、
而、已、カ、ヲ、又、却、テ、連、結、〃誓、ヲ、願、成、ス、
〃異、事、ハ、ニ、過、キ、ス、及、シ、蓋、ニ、法、意、〃然
カ、ル、モ、ト、ハ、編、力、ヲ、得、ニ、ヤ、而、テ、又、見、
一、方、ニ、轉、シ、候、令、其、社、者、〃社、知、ハ、同、一
ナ、リ、ト、雖、モ、其、場、所、〃社、員、ト、テ、異、ニ、ス
ル、以、上、ハ、全、〃他、〃社、ト、有、候、ニ、第、八、條
ノ、法、制、ヲ、シ、テ、適、用、セ、シ、ハ、何、モ、ト、
セ、ン、カ、法、律、ニ、明、文、ナ、キ、ヲ、ヲ、シ、テ、只
法、意、ノ、推、測、上、ヨ、リ、シ、テ、之、レ、ヲ、適、用、ス
ル、ト、キ、ハ、濫、刑、ノ、弊、ニ、陷、ル、ト、恐、レ、ナ、リ
相、ハ、如、何、相、心、得、可、然、乎

結セシコトヲ謀ルモノハ如キニ事奉
ク遊ケサルモ條例第八條通信往復
ルモノヲ以テ論シ可然哉

〔説明〕 十三年六月七日

具見解ノ通

〔警視本署質問〕 十三年五月三十一日

第八條ニ通信往復スルヲ得ヌト
リ右ハ甲ノ社ト乙ノ社ト通信往復
ルヲ得サル旨意ニシテ同社中ノ通信
往復ハ制外ナル哉例ハ講談論議又
為ノ集會状ヲ發シ又雜誌雜報其社
行
モシタル等ヲ社負ハ通送スルノ類
他ノ社ト連結云々トアリ右ハ他ニ支

〇五年新事亭布告ニ依
リ不學ノ質問ニ屬ス

社ヲ設ケルコトヲモ得サル趣意ナリ
ト聞ケリ果シテ然ラハ一府縣管轄内
ト雖モ之ヲ設ケルコトヲ許サハル事

〔説明〕 十三年六月七日

第一條第二條共其見解ノ通

〔福島縣質問〕 十三年五月廿一日

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為
ノ一社ヲ結ビ然シテ又其支社ヲ設置
シ本社ニ支社負相往來シ講談論議ス
ト雖モ元來一ノ社負ニシテ集會條例
中禁止ノ明文ナキヲ以テ不問ニ付シ可
然哉
一社負ニシテ他ノ數社ニ加入スル事

ハ自然各社一團結ニ委ニ力山日難ニ
固甲社ト乙社トノ連結スルニ力ナ
ルヲ以テ是亦不問ニ付タル儀ト根心
得可然哉

(説明)

十三年六月十四日

第一條第二條共條例第八條ノ末項ニ
依ル

(福宮縣質問)

以轉致

十三年五月六日

第八條他ノ社ト連結トアルハ甲ノ社
負ニシテ乙ノ社ニ加入スルハ差支盛
ヤ

(説明)

十三年六月十九日

本例第八條末文ノ精神ニ依リ不相成

儀ト思考ス

(滋賀縣質問)

以轉致

十三年五月五日

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為
ノ其説ク所ノ音趣ヲ詳記廣告スルハ
勿論彼令其音趣ヲ詳記スルニアラサ
ルモ其論題ヲ廣告スルハ一切不相成
義ト存候得共只々漠然ト何所ニ於テ
政談會或ハ演説會開設スル音廣告又
ル如キハ其音趣ヲ廣告スルモノニア
ラカルヲ以テ禁止ノ限リニアラサ
義ト相心得可然哉
分社或ハ支社ヲ設クル義ハ條例中則
支無之ト雖モ右ハ一切不相成義ト相

○此小冊子等心所布告
依リ不勝感荷之至

心得可然哉

(說明)

十三年六月二十一日

第一條第二條共其見解ノ通

(宮城縣質問)

内務省
轉致

十三年五月二十七日

政治ニ関スル事項ヲ演説スル為ニ
人以上ノ者申合開會三日
前願出警察
ノ認可ヲ得タル後
其一人ノ者同志
ニ謀ラス自己ノ專断ヲ以テ
集會條例
第八條前項ノ制限ヲ侵シ
新聞紙ニ
シ其旨趣ヲ公告シタル
ハ其犯則者
ハ同條例第十五條ニ
照シ處分スヘキ
ハ無論ニ
獲得共
此場合ニ於テハ
其全
會ノ演説ヲ停止スルノ
明文ヲケレハ

他ハ聞届ケ置可然哉

前條ノ制限ヲ侵シタル場合ニ於テハ
其依頼ヲ受テ
揭示シタル
新聞紙編集
者ハ條例第十五條
以事ニ関シタル者
ノ明文ニ依リ
同罪ト見做シ
處分スヘ
キ哉

(說明)

十三年六月二十一日

第一條 全會ノ演説ヲ停止セシムル

モノトス

第二條 其見解ノ通

(長寄縣質問)

十三年四月二十六日

第八條ニ他ノ社ト連結シ及ヒ
通信社
復スルヲ得スト有之然ルニ
某社集會

ノ負アリ彼等旧来ノ知者ナルヲ以テ
 各自己ノ名面ニテ普通ノ書信ヲ交換
 シ其土地土地ノ近況ヲ報道スルヲ為
 集會ノ事ヲ記載スル等ハ本ヨリ不問
 ノ義ト存候一共之ヲ不問トスルトキ
 ハ通信往復ヲ禁スルノ効ナキモノハ
 如シ果シテ然ラハ共ニ社員會員タリ
 且其團結ノ方法規約ノ是非ヲ問答ス
 ルカ如キハ縱令各自己ノ名ヲ以テス
 ルモ十五條處分ノ手續ヲナスヘキ哉

(説明) 十三年六月二十二日

仮令各自己ノ名ヲ以テ通信往復スルモ
 團結ノ方法規約等ヲ問答スルカ如キハ

條例第八條末文ノ精神ニ依リ相ナラ
 サル儀ト思考ス

(愛媛縣實問^{内務省}ヲ轉致) 十三年五月十一日

第八條ニ其旨趣ヲ廣告ニ云々ト有之
 處其旨趣トハ即チ講談論議スル所ノ
 本旨及ヒ事柄ニテ其刺會ノ日時場所
 等ヲ新聞紙上其他ニ於テ廣告スルハ
 不若義ニ候哉將々他ノ社ト連結スル
 ハ同シク政治上ニ関スル講談論議ヲ
 目的トシタル會社ヲ指ス歟

前條廣告ノ儀若シ政談者ノ依頼ヲ受
 ケス唯探訪人ノ探知等ニヨリテ其旨
 趣ヲ新聞紙上ニ揚クル者アルハ取締

方如何相心得可然哉

(說明) 十三年六月三十日

第一條 其見解ノ通

第二條 法ニ明文ナキヲ以テ忍分ク

ルノ限ニ非ス

(島根縣質問) 十三年六月二十五日

其主旨ヲ廣告シトハ講談論議ノ主意

ヲ廣告スルモノニテ單ニ某月某日某

地ニ於テ政治ニ関スル演說開會スト

ノミ廣告スル如キハ之レヲ新聞紙ニ

登錄シ又ハ門楹ニ揭示シ又ハ人ヲ派

シテ街衢ニ鳴告セヨハル等如何ノ方

法ヲ以テスルモ無妨ナリ

(說明) 十三年七月二十七日

見解ノ通

但街衢ニ鳴告スル等ノ所為ハ警察

上ノ見込ニヨリ制止スルハ差支ナ

キ義ト思考ス

(司法省質問) 浪見島縣ヨリ同省(十三年八月二十四日)

國會開設願望ノタメ其旨趣ヲ廣告シ

公衆ヲ誘導集會スルモノ集會條例第

八條ニ據リ處分スヘキナリ

(說明) 十三年八月二十六日

其見解ノ通

(司法省質問) 十四年九月十四日

第八條ニ政治ニ関スル事項ヲ講談論

議スルモノ其旨趣ヲ廣告シ云々
 之其旨趣トハ文詞ニ就テ之ヲ觀シハ
 議論ノ要旨ヲ摘記シ之ヲ廣告スルカ
 トヲ禁セシモノニシテ單ニ其論題ノ
 シテ廣告スルコトハ妨ケ無キカ如シ
 ト雖トモ若シ之レヲ廣告スルコトヲ
 得ルモノト爲サハ其論題ヲ長クシテ演
 説ノ旨趣ヲ含蓄シテ廣告スルニ至ル
 ノ弊ヲ生スヘシ果シテ然ル時ハ該條
 例ノ精神ニ違フヘキニ甘單ニ論題ノ
 シト雖モ之ヲ廣告スルコト相成ラカ
 ル儀ト見解ヲ爲シ可然哉

(説明)

十四年九月十六日

其見解ノ通

(本稿アリノ事ニ注意シテ本稿ニ
 質同アリノ事ニ注意シテ本稿ニ
 質同アリノ事ニ注意シテ本稿ニ)



第九條

政治ニ関スル事項ヲ講談論議スル為ノ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催ストラ得ス

（国山縣質問）

十三年四月十六日

本條ニハ特リ罰例アルナシ若シ本條ニ違犯ノ者有之ニ於テハ違令等ニモ同ヘキ義ニ心得可然乎

（説明）

十三年四月二十三日

之ヲ解散セムルニ止ル

（石川縣質問）

十三年四月十五日

第九條ニ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催ストラ得ストアルハ路上ニ立テ講談

スルカ如キモ無論相成テサカ儀ナシ
我

〔説明〕

十三年四月二十八日

其見解ヲ以テ允當トス

〔埼玉縣質問〕

十三年四月二十九日

第九條屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催ス
ヲ得ストアリ而シテ之レヲ犯シタルモ
ノ、罰則ヲ見スト雖モ固ヨリ警察官
ニ於テ認可セサルモノナレハ違犯者
ハ第一條ニ違背スルモノト爲シ第十
條ノ罰ヲ科スルノ趣意ナル哉

〔説明〕

十三年五月七日

之ヲ解散セシムルニ止ル

〔愛知縣質問〕

十三年五月六日

第九條屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催ス
コトヲ得スト有之右ハ其旨趣ニ背戾
シ右ニ屋外ニ於テ集會ヲ催スモノア
ルヲ見認ムルキハ直ニ違令ニ問罪ス
ヘキ者ニ候哉又ハ唯其解散ヲ命シ之
ニ從ハサル片ハ條例第十三條ニ依リ
處分スル義ニ候哉

〔説明〕

十三年五月十五日

第九條ノ義ハ之ニ解散ヲ命シ若シ之
ニ從ハサルトキハ例第十三條ニ照シ
處分スヘキモノトス

〔滋賀縣質問〕

同日
滋賀縣質問

十三年五月九日

認可ヲ受テスニテ屋外ニ於テ集會ス
為スモハ勝剛等十條ニ依リ是ヲ受
シ可然哉

説明

十三年六月七日

之ヲ解散セシムルニ止ル

滋賀縣實問

内務省
ヨリ轉致

十三年五月五日

仮令屋内ト雖モ常ニ公衆ノ自由ニ出
入スルヲ得ハキ神社佛閣等ニ於テ集
會ヲ催ス義ハ不相成義ト相心得可然
哉

但屋外ト雖モ一時小家掛々或ハ外
圍ヲ為シ集會スルハ不苦候哉

説明

十三年六月二十一日

神社佛閣ニ於テ集會スルハ妨ラナシ

ト雖モ但書ノ場所ハ不相成モノトス

内務省實問

滋賀縣ヨリ同省ノ
伺文ヲ以テ實問

十三年九月二十一日

先伺事八條ニ仮令屋内ト雖モ常ニ公
衆ノ自由ニ出入スルヲ得ハキ神社佛閣
等ニ於テ集會スル義ハ不相成義ト相
心得可然哉但屋外ト雖モ一時小屋掛
或ハ外圍ヲ為シ集會スルハ不苦哉ト
アルニ對シ神社佛閣ニ於テ集會スル
ハ妨ケナシト雖モ但書ノ場所ハ不相
成モノトスト回答有之然ルニ神社佛
閣等群衆ノ公衆佇立シテ直ニ聴聞シ
得ヘキ場所ニ於テ演説スル等ハ仮令

内ナリト雖モ畢竟屋外路傍ニ建テ
条例第七條ニ載スル者、取締モ不
立等ノ場所ハ矢張相成ラザルガ
ハ無之哉又之ニ反シ屋外ト雖モ一時
小屋掛等ノ設ラサシ門戸ヲ立テ區域
ヲ定メ通行人佇立シテ直ニ聽聞シ得
ザル場所ニ於テ開設スルハ却テ不若
方ニ無之候哉

説明

十三年十一月九日

神社佛閣ト雖モ屋外路傍ニ均シシテ
取締不相立場所ハ集會ヲ許スノ限リ
ニ非ス小屋掛ト雖モ門戸ヲ設テ取締
アル場所ニ於テ集會スルハ妨ナシ

第十條

第一條ノ認可ヲ受ラスシテ集會ヲ催スモノ
會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ
十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席
ヲ賃シタル者ニ會長幹事及ヒ其講談論
議者ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處
シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條ニ
依ル

愛知縣質問

十三年六月十二日

第十條ニ依リ處罰スルヤ會主ニシテ
幹事ヲ兼テ會長ニシテ講談論議者
ヲ兼テタルトキハ各別ニ處罰スルヤ

説明

二 罪 後 發 則 二 依 一 論 一 ノ キ ト ト 人

將 々 兼 獲 ノ 由 ニ 支 出 申 出

十 三 年 六 月 十 五 日

○十五年三月二十七日布告改正

第十條 第二條第一項、

規程ニ背キテ届出ヲ為サス

又ハ尋問ニ九所ノ事項ヲ用

答セザルトキ社長ハ二月以上

二十日以下ノ罰金ニ處シ詐

欺ノ届出ヲ為シ或ハ尋問

ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ

右罰金ノ外尚十以上

三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

○石川縣實問 明治十五年

本年太政官第百二十七号布告

ヲ以テ集會條例改正並ニ

罰則ニテ同條例第百三條ヲ

成候処同條例第百三條ヲ

禁錮ノ法文現在スルニ

是レ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

應ニテ是レ輕禁錮ト改正相

第十一條

第二條ノ規程ニ背キ社則或ハ社負名簿或

ハ改則社負ノ出入ヲ定期ニ於テ警察署ニ

届出テス又ハ尋問ニ九所ノ事項ヲ回答セ

ザルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰

金ニ處シ偽作ノ社則又ハ名簿ヲ届出テ或

ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右罰金

ノ外尚十一日以上三月以下ノ禁錮ニ處ス

石川縣實問

十三年四月十五日

第十一條ノ場合ニ於テ届出タル社則

若リハ社負名簿ニ相違アルニ事該規

程ニ係ルモノハ處罰ノ限ニテラサレ

Table with 10 columns and 1 row of text.

Table with 10 columns and multiple rows of text.

Table with 10 columns and 1 row of text.

Table with 10 columns and multiple rows of text.

説明
一
實際ノ形
ニ非ス

十五年三月二十七日
第五條

第五條ノ規程ニ
背キ派出警察官ノ臨席ヲ
肯セズ又ハ其表立所ノ
席ヲ供セザルハ會主
會長及社長幹事ハ各
五圓以上五十圓以下ノ罰
金若クハ一月以上二年以下
ノ禁獄ニ處ス又ハ偽答
ノ尋問ニ答ヘズ又ハ偽答
スル者ハ同罪ニ處ス再犯
ニ當ル者ハ十圓以上百
圓以下ノ罰金若クハ二
月以上二年以下ノ禁獄
ニ處ス

第十二條

第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ
肯セザルトシテ會主會長及社長幹事ハ各
五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以
上一年以下ノ禁獄ニ處シ其警察官ヨリ演
說者ノ姓名ヲ尋問スルニ之ニ答ヘズ又ハ
偽答ヲ答ヘタル者ハ同罪ニ處シ再犯ニ當
ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二
月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス

滋賀縣質問
（司法省ヨリ轉致）

十三年五月五日

條例中再犯ハアルハ曩ニ警察官ヨリ
演說者ノ姓名ヲ尋問スルニ之ニ答ヘ

ナル科ニ依リ一度處罰ニ違ハズ
ト同一ノ尋問ヲ受テ答ハ用ル期ニ
フ儀ニテ其最ニ演説者ノ姓名尋問
受ルニ答ヘス一度處罰ヲ受リ後懲
官ノ臨席ヲ拒ミ又ハ認可ヲ受ケ
ヲ集會ヲ催ス類ハ再犯ヲ以テ論
ノ限ニアラザル義ニ候哉

〔説明〕

十三年六月七日

總テ再犯ニ依テ論ス

〔島根縣質問〕

十三年六月二十五日

第十二條警察官ヨリ演説者ノ姓名ヲ
尋問スルニ之トニ答ヘス又ハ偽名ヲ
答ヘタルモノトハ會主社長等ニ限ラ

ス其尋問ヲ受テクモモノハ何人ニ論
テ本條ニ依リ處分スルノ主旨ナル
乎果シテ然ラハ第十一條ニ於テ第二
條ノ規程ニ背キタル一切ノ責メヲ社
長ニ歸スルモノト不權衡アルニ似テ
如何相心得可然乎

〔説明〕

十三年七月二十七日

會主會長社長幹事ニ限ルモノトス

第十三條

派出所ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尚退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

(内務省質問) 十三年四月十九日

派出所ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尚退散セサル者トアル退散ハ會主等ノ其命ニ從ハサルトキト直子ニ臨會スルヲ得サル者ニ退去ヲ命シ其者退去セサルトキトニツキ掛リタル義ナル歟

説明

十三年四月二十二日

其見解ヲ以テ允當トス

埼玉縣質問

十三年四月二十七日

第十三條解散ヲ命シタル後尙遠散セ
ザルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰
金ニ付トアリ具解散ヲ命シテ尙遠散
セザレハ衆多ノ傍聽人各自ニ罰金
嗽將リ會主會長幹事等ニ止マルノ
意ナル哉

説明

十三年五月七日

會主會長及社長幹事等ト傍聽人トシ
同ハス解散ヲ命シタル後尙ホ退散セ
ザルモノヲ罰スヘキモノトス

島根縣質問

十三年六月二十五日

第十三條解散ヲ命シタル後尙退散セ
ザルモノトハ會主社長又ハ會負社員
聽衆等ノ別ナリ退去セザルモノ悉皆
ヲ云フ事

説明

十三年七月二十七日

其見解ノ通

司法省質問

十四年二月十五日

島根縣令境ニ即ヨリ集會條例ノ義ニ
付別紙寫ノ通伺出候右ハ陸海軍人等
ニ係レハ臨會或ハ入社シタル罪ト警
察官ノ解散ヲ命シタルニ解散セザル
罪ト二罪各別ニ處罰シ可然哉

別紙島根縣ヨリ司法省ヘ伺

第十三條派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ
 命シタル後尚ホ退散セザル者ハ

マラ、儀ト相心得可然哉

説明

十四年二月二十二日

集會條例ノ儀ハ二罪俱發例ニ依リ處罰スヘキ義ト思考ス

司法省質問 十四年五月日

山形縣令三島通庸ヨリ集會條例第十
 三條ノ義ニ付別紙之通伺出候右伺第
 十三條退散ヲ命シタル者云々トアル
 ハ第六條全會ノ解散ヲ肯ニセサル者
 ヲ處罰スルノ例ニ付臨會セシ総人負
 ヲ指稱シタル義ト解釋シテ可然哉
 別紙山形縣ヨリ司法省ヘ伺
 第十三條派出ノ警察官ヨリ解散ヲ

第十四條

第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及
社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金
若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ
其他情状ノ重キモノアリハ其社ヲ解散セ
シム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル
者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

(埼玉縣質問)

十三年四月二十九日

第十四條其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ
臨會スルモノハ貳圓以上貳拾圓以下
ノ罰金ニ處ストアリ同條例第七條ニ
アル臨會ヲ傍聽者トナストキハ之レ

ヲ退去スルニ付、ミナラズ本條
ノ罰ヲ計ルニ、越意ナル哉

(說明)

十三年五月七日

其是解通

(書後縣實問)

十三年六月二十五日

第十四條ニ據リ解散シ命ミタル後尚
解散セザレバ、如何處分スハキ乎

(說明)

十三年七月二十七日

一般警察上ノ處分ニ及ソバキモノト

ス

第十五條

第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及
社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金
若ッハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其
社ヲ解散セシムル事ニ関スル者モ亦同罪ニ
處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾
圓以上百圓以下ノ罰金若ッハ二月以上二
年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以
上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

(石川縣質問)

十三年四月十五日

第十五條ニ其社ヲ解散セシムトアル
ハ法衙ノ處分ニ付スヘキヤ又ハ警察

○以質問說明ニ據ラ
リルカ如シ

爲ヨリ違ニ經費ニ於テハノ
 同條ニ於テハノ
 券ノ條ノ制ニ於テハノ
 依リ處分スヘキ哉
 同條中脅迫スル者トハ例ハハ同會則
 設願望ノ定言書ニ強ラ連署調印ヤ
 ノ又ハ恐喝威カヲ以テ同盟入社セ
 ンルノ類ナル哉

（説明）

十三年四月二十八日

第一條 前段ノ見解ヲ允當トス
 第二條 第三條共其見解ヲ以允當ト
 ス

島根縣實業

十三年六月二十三日

第十五條 此事ニ關スルモトハ會主
 會長社長幹事等ノ外社員若クハ會員
 ト其他ノモノトヲ論セス首ニ券ハ條
 ノ禁ヲ犯スニ關係スルモノハ自己ノ
 爲ニシテノ爲メニ又ハ同ハ又惣
 テ本條ニ依リ處分スルヲニテ又書ヲ
 發スル爲メニ雇ヲ受ケシ筆工甲乙丙
 社ノ通信往復ヲ取扱フ脚夫ノ如キモ
 情ヲ知レハ亦本條ニ據ルハキ止肯
 ン子

（説明）

十三年七月廿七日

其見解ノ通

十五年三月二十七日布告

改正

第十六條 學術會其他
何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラ
ズ多ク衆集會スル者警察
官ニ於テ治罪ヲ保持スルニ
要トシト認メテ之ハ之ニ
臨スルコトヲ得若シ其
ヲ首セザルトモ第六條
ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ
関スル事項ヲ請談論
議スルコトアルトモ第十
條ニ依テ處分ス

○同年七月布告追加
第十七條 前條ノ場合ニ
於テ治罪ヲ妨害スルト
認ムル者ハ第六條ニ依
テ處分ス

第十八條 凡ソ結社者
ハ集會スル者内務省
ニ於テ治罪ニ妨害アリ
ト認ムル者ハ之ヲ禁スル
コトヲ得若シ其禁ムル
ニ依ラズハ之ハ之ニ依
テ處分ス

第十六條

成法ニ制定スル所ノ集會ハ其限ニ在
ラス

卜有上相ノフス偶然當
 者ノ政治ニ関スル事
 可輸談ニ有アル事
 十分ニ扱フ外方ニ
 相心得可然也
 説明 大目三ノ部
 会主会長等場ヲ知ラ
 凡有ハ其罪ヲ論マシ
 情ヲ知ルニ至ラハ
 類度ニテハハキニトス

明治十一年七月二十九号達内務省
近來地方ニ於テ國事政體ヲ談論スルノ目
的ヲ以テ何某社ト称シ或ハ演說會ヲ開
キ多衆集合スル者有之趣相聞ハ右ハ警察
官ニ於テ視察ヲ加ヘ萬一其舉動民心ヲ
煽動シ國安ヲ妨害スルニ涉リ候者ト看
認候節ハ東京府下ハ警視長官各地方ハ
其長官ヨリ令禁止其事情ヲ具ヘ内務卿
ハ可届出此旨相達候事

〔岡山縣實問〕 十三年四月十六日

條例御発行ニ就テハ明治十一年第二十
九号集會取締ノ公達ハ自ラ消滅シ

（說明）

十三年四月廿二日

廢止ノ違無之ニ自消滅ト看做スル
ラス

（愛知縣質問） 十三年五月八日

集會條例御発行相成候ニ付テハ川内
十一年第廿九号公達ハ自然消滅セシ
モノ歟又ハ集會條例ト依行スヘキモ
ノニテ條例中明文ハ無之ニ該例第六
條ノ場合ニ臨ミ其舉動民心ヲ煽動シ
國安ヲ妨害スルニ涉ルモノハ禁止ノ
令ヲ發シ不苦節ニ候哉

（說明）

十三年六月十八日

廢止ノ違無之ニ自消滅ト看做スヘカ
ラス

（内務省質問）

十三年七月廿七日

演說會社解散申付度儀ニ付別紙寫ノ
通石川縣ヨリ同出候處集會條例第七
條第八條ニ抵觸スルノ外解社セシム
ルノ明文ナキ以上ハ素ヨリ行政処分
ヲ以テ解社難申付筋ト存候得共尙小
審按スルニ其結社届出ノ初メハ國安
ニ妨害ナキヲ以テ認可スルモ尔後具
形况追々陰險ニ涉リ國安ニ妨害アリ
ト認ムル片ハ第四條ノ精神ニ依リ更
ニ解社セシムル儀ト心得可然哉

言無二種應難導之外數多本年四月第
十二号公布集會條例。依此政治。國
スル事項。講談論議。之為。補救社
ト稱。結社致度。既出。其時
何等。差支。慮。之。月。認。候。處。具
後。開。會。節。我。同。胞。兄。弟。皆。ソ。ト。云。フ
事項。ニ。シ。テ。具。演。說。發。端。ハ。大。政。府。ニ
於。テ。愛。國。社。員。集。會。ニ。テ。國。會。開。議。ノ。事
ヲ。談。ス。ル。片。精。義。社。員。モ。亦。會。ニ。出。ル。處
國。會。ヲ。設。ク。ル。願。ヲ。出。ス。フ。ニ。愈。々。相。決
シ。而。シ。テ。我。々。有。志。趣。代。ト。ナ。リ。片。密。健
基。等。四。日。上。旬。東。京。ニ。出。テ。國。會。開。議。願

望。昏。ヲ。持。テ。大。政。官。ニ。出。テ。大。政。大。臣。ニ
面。謁。ラ。セ。テ。其。日。大。臣。ニ。ハ。出。堂。無。之
以。テ。書。記。官。谷。森。君。ニ。書。ヲ。出。シ。タ。リ。云
々。ヲ。陳。ヘ。ケ。ル。末。實。ニ。明。治。政。府。ニ。於。テ
ハ。天。理。ニ。悖。戾。ス。ル。暴。政。府。ニ。アル。云。々
如。斯。國。母。妨。害。ノ。演。說。ヲ。為。ス。ヲ。以。テ。監
臨。ノ。警。部。ニ。於。テ。其。演。說。ヲ。停。止。シ。而。シ
テ。全。會。解。散。ヲ。申。付。ル。ノ。際。數。千。ノ。傍。聽
人。無。謂。突。然。雜。沓。ヲ。極。メ。就。中。火。鉢。ノ。類
ヲ。持。出。之。レ。テ。投。棄。ス。ル。モ。ノ。アリ。為。ノ
ニ。一。同。亦。增。騷。立。出。張。警。官。ニ。於。テ。八。方
制。止。ス。ル。モ。何。分。數。千。人。ノ。傍。聽。人。囂。然
群。亂。ノ。場。合。ト。レ。ハ。器。物。ヲ。投。ス。ル。モ。ノ

ヲ見獲スルニ容易ナラズ是等制防ノ
際巡查ノ帽及被服破裂ニ至リシハ
ハ傷痕ヲ受ルモノアリ尚現今ノ処ニ
テハ將來弊害ヲ増スヘキヲ必然ノ處ニ
況ニテ原未傍聽人ノ氣勢恰モ演説者
ト密約シテ國安妨害ノ説ヲ好シ純然
ノ演説ヲ望ムサルモノニ付傍聽人ノ
惡弊其止ル処ヲ知ラサルカ如シ抑諒
社員タルヤ大抵愛國社ト文際連絡ニ
テ常ニ政府ヲ疾視スルヨリ開會毎ニ
國安妨害ノ説ヲ吐カサルナシ渾ラ人
心ヲ激動スルヲ已ニ前陳ノ如クニテ
社員傍聽人共概シテ其党類ト云フベシ

如期不法不埒ノ向ハ鮮社セムニハ後
未危疑ノ災害ヲ醸生スルモ難量右ハ
集會條例ニ適切ノ明文無之ニ付特權
ヲ以テ鮮社申付差支有間敷ト存候得
共聊カ疑議ヲ生シ候ニ付至急御指令
被下度

〔説明〕 十三年八月七日

明治十一年第二十九号達ニ據リ禁止
セシムヘキモノトス

○十五年新第百号
布告依り不要實
例之屬云

明治十三年四月第十三号布告

今般第十二号布告ノ通集會條例被定候

ニ付テハ從前集會結社候者モ右條例ニ

依リ更ニ届出ハシ以旨布告候事

〔大分縣質問〕 十三年四月廿八日

本月六日付第十三号公布ニ從前集會

結社候者モ右條例ニ依リ可届出ト

リ右ハ政治ニ関スル事項ヲ講談論議

スル集會ノミト相心得可然哉又ハ公

衆ヲ集メ講談論議スルモハ政治ニ

関セサルモ該條例ニ依リ可届出義ニ

候哉

大分縣

〔説明〕

十三年五月五日

政治ニ関スル講談ノ集會ノこと思考
ス

明治十二年五月無号達

凡ソ官吏タルモ其職務ニ係ル外政談講
學ヲ目的トシテ公衆ヲ聚メ講談演説ノ席
ヲ開ク等不都合ノ儀ニ付右等ノ儀無之様
各長官ニ於テ取締可致ル旨相達候事

附録

〔愛知縣質問〕

十三年四月廿日

條例違反ノ者ヲ警察官吏ニ於テ紀治
申述走ノ実アルカ否ナルモ親戚隣保
等ニ保管セシムルヲ不相成場合ニ於テ
ハ警察署ノ拘留所ニ留置不苦候哉

〔説明〕

十三年五月十日

不苦儀ト思考ス

滋賀縣質問

司法省ヨリ
轉致

十三年五月五日

條例中ノ二事以上ヲ犯シ又ハ該條例
ト他ノ刑法諸罰則等ト二罪併發スル
ハ八例トシ一ノ重キヲ以テ論シ可然
哉

國母ニ於テハ
 罪ニ犯スルハ自首スルニ減免スル
 限リニ無之限哉
 會集スル聽衆ノ内此條例ヲ犯スル會
 主會長等其情ヲ知リ且其ノ不同ニ
 行ニ可然哉

〔說明〕 十三年六月七日

第一條 條例中ノ二事以上ヲ犯スル

ハ二罪俱奈例ニ依リ刑法又ハ諸罰則

ト俱奈スルハ各別ニ処分ス

第二條 國母ヲ妨害スル者ハ自首減

免ヲ聽サス

第三條 其見解ノ通